

6月23日以降も攻撃続く

米軍は1945年3月26日に慶良間諸島、4月1日に沖縄本島へ上陸しました。米軍は上陸後、約3時間で白米軍が造った北飛行場(旧読谷補助飛行場)と中飛行場(現嘉手納基地)を占領し、北部と日本軍の司令部がある首里を自指します。宜野湾村(現宜野湾市)で日米両軍の激しい戦闘があり、日本軍は多くの兵士を失いました。

首里城の地下にあった、白米軍司令部の西側にある安里の慶良間チーフ(52高地、シュガーローフ)では5月12日から1週間、日米両軍による激しい攻防戦が展開されました。真正付近の戦闘は日米両軍の支配が



日本軍の重砲火を浴びて、壕壁にくき付けになった米兵。1945年3月26日、座間味島

1日に4回も入れ替わるほどし烈を極め、5千人以上が死んだと言われています。

劣勢に立たされた日本軍は南部への撤退を決めます。それまでの戦いで戦力の大半を失っていましたが、本土決戦の準備が整うまで、米軍を一日でも長く沖縄に引きつける「持久戦」を続けるために、軍司令部を摩文仁村(現糸満市摩文仁)に移しました。日本軍第32軍の司令官、牛島満が6月23日(22日の説あり)自決すると、米軍は7月2日に「琉球方面作戦」の決着を宣言しましたが、牛島司令官が「最後の兵まで戦え」と言い残していたため、日本兵たちは降参せず、米軍も攻撃を続けました。

沖縄戦が公式に終わったのは9月7日。越来村森根(現沖縄市、嘉手納基地内)で米軍などの連合国と日本が「降伏文書」の調印をして、多くの人の命を奪った戦争は終わりました。

逃げ場失い 捕虜にもなれず

沖縄戦では20万人余りの人が亡くなりました。そのうち、一般住民の犠牲は約9万4千人です。県出身の軍人・軍属を合わせると、沖縄の人の犠牲は12万2千人を超えます。

日本軍は戦争準備のため、1944年春に沖縄に第32軍を組織し、飛行場建設や陣地構築を進めます。この年7月、日本が統治していたサイパンが米軍に占領されると、政府は沖縄の子どもたちやお年寄りを疎開(戦争から逃れるため、よその場所へ避難すること)させる方針を決めます。その政策によって、九州に疎開する子どもたちが乗った「対馬丸」がアメリカの潜水艦に沈められる悲劇も起きました。

その後、主に17~45歳以上の男性を「防衛隊」、14~19歳までの生徒を「学徒隊」として戦闘に参加させ、老人や女性、子どもらは飛行場や陣地造り、食料の調理を担わせました。



45年3月末から米軍が沖縄の島々に上陸すると、住民は逃げ場を失います。米軍の怒らしさを教えられ、捕虜となることを禁じられた住民が自ら命を絶つこともありました。これを「集団自決」(強制集団死)といい、日本軍の強制や関与によって住民が死に追い込まれていたことが体験者の証言や沖縄戦の研究で分かっています。米軍のスパイとして疑われ、日本兵に殺された住民もいました。

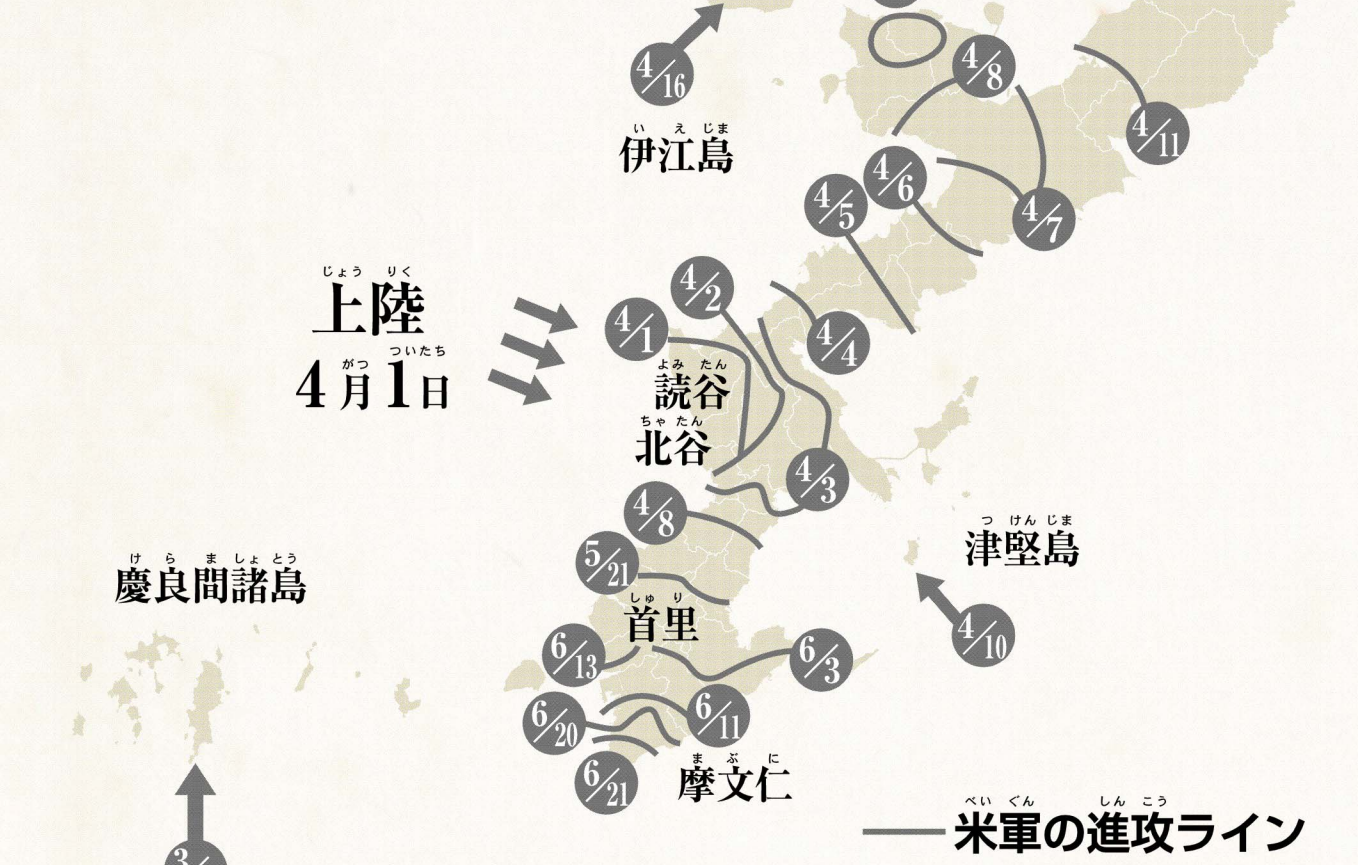
宮古・八重山諸島などでも空襲や艦砲射撃で大きな被害があり、八重山では日本軍の指示、命令で避難した住民が避難先でマラリアにかかり、大勢の人が亡くなりました。朝鮮から連れてこられた人々と台湾の人々も戦場に投げ出され、亡くなりました。

本島南部で激戦 住民が犠牲に

日本やドイツ、イタリアでつくる枢軸国とアメリカやイギリスなどの連合国が戦った第2次世界大戦の最後の激戦地となったのが沖縄です。県民の4人に1人が犠牲になるほど、おびただしい数の住民が戦争に巻き込まれました。当時7歳だった野原清子さん=南風原町=は10・10空襲の後、空襲がどんどん激しくなることに危機感をじて家族と共に南部に向かって避難します。野原さんの母親は子を身ごもっていました。野原さんの避難した経路をたどりながら、当時の様子を想像してみましょう。

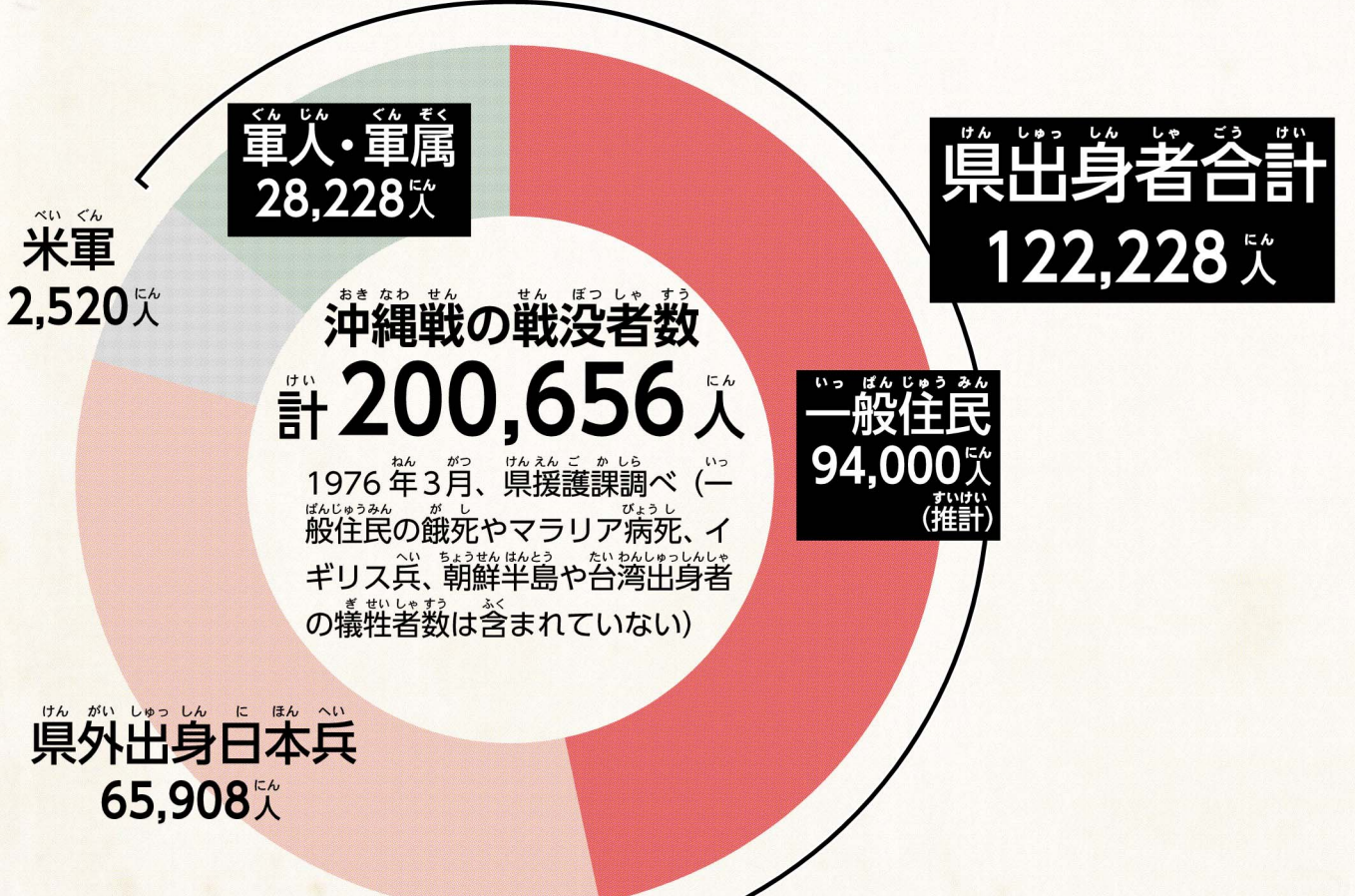
沖縄の地上戦

4月1日に沖縄本島に上陸した米軍は、本島を南北に分断した後、北部と南部に進攻し、日本軍と戦います。上陸前日の3月31日、日本軍は戦況悪化を理由に北部への移動を停止し、約10万人の住民が中南部に取り残されました。



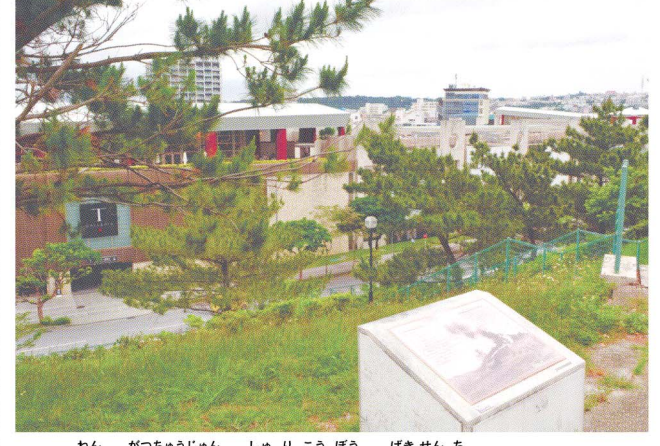
軍人上回る 9万4千人死亡

日米両軍の激しい戦闘で、軍人・軍属を上回る多くの一般住民が亡くなりました。戦没者数20万656人のうち、一般住民の犠牲は約9万4千人、県出身の軍人・軍属を合わせると12万2千人を超えます。第32軍が首里から摩文仁へ撤退し、激戦となった沖縄本島南部では住民の犠牲が特に多くなりました。



(沖縄県援護課資料より)

シュガーローフ



1945年5月中旬に首里攻防の激戦地となりました。米軍の死傷者は2662人で、心的外傷後ストレス障害(PTSD)になる人も続出しました。日本軍も数多く命を落としました。

軍民混在 悲劇が拡大

沖縄本島の南部には約10万人の住民が戦火を逃れて避難していましたが、野原さんもその1人です。そこへ撤退してきた日本軍を追って米軍が進攻したため、南部は激戦地となります。軍隊と住民が混在する戦場で悲劇がいくつも起きました。米軍に投降しようとした住民を日本兵が殺害する「住民虐殺」や極限状態に追い込まれた住民が自ら命を絶つ「集団自決」(強制集団死)のことで、南部は多くの沖縄住民、日米両軍の兵士が命を落とした悲しい地です。糸満市を中心に、南部には多くの慰霊碑が建っています。

第32軍司令部壕周辺



首里城の地下約30分に、全長約1.5kmの第32軍の司令部壕が置かれました。1945年5月下旬の本島南部撤退まで、牛島満司令官らが指揮を執りました。

ひめゆりの塔



沖縄師範学校女子部と県立第一高等女学校の生徒でつくる「ひめゆり学徒隊」と教職員の戦没者を慰霊する塔。塔の前の壕では1945年6月19日に米軍の攻撃を受け、学徒38人と教員4人を含む80人余りが犠牲になりました。

魂魂の塔



1946年2月、沖縄で最初に建立された慰霊塔。身元不明の遺骨を納めており、慰霊の日には、両親の戦没場所が分からない多くの遺族が足を運びます。

野原さんの移動経路



けがした兄を置いてくる

〈具志頭村破名城に避難した野原さん。子どもを身ごもった体で兄を背負っていた母が姿を見せず、不安な夜を過ごしました。〉
翌朝5時ごろ、母が1人で現れました。「兄さんはどうしたの?」と聞いてもまだ泣くばかり。気持ちが落ち着くと、母は兄を丘に置いてきたことを母親に伝えました。兄は「アンマー、今までありがとうね。苦勞をかけてすまなかったね」と言ってとくったそうです。くしくして、母がまたいなくなりま



避難場所に兵隊 壕に入れず

〈南部に向かった野原さん家族は、5月半ばに具志頭村(現八重瀬町)大嶺の空き家にたどり着きます。そこには大きなガジュマルがあり、日本兵と避難民が一緒に集まっていた〉
避難して3日たった頃でしょうか。攻撃があって、屋敷にも爆弾が落ちました。煙やほこりが立ち、鍛冶屋がたたいているような真赤な破片がちらちらの所に飛び散りました。私たちは近くの壕に逃げ込みましたが、兵隊さんがいっぱい入れてもらえず、仕方なく壕の入り口に落ちて落ち着くのを待ちました。

平和の礎



世界の恒久平和を願い、国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなった人々の名前が刻まれています。2016年6月現在、刻銘者数は計2万1414人です。

知らぬ間に 背中の妹も…

〈破名城を離れてさらに南に進んでいた6月中旬、糸満の真栄平で米軍に保護され、玉城村(現南城市) 親慶原の収容所に連れて行かれました。〉
収容所ではおにぎりやまんじゅうなどの配給がありました。妹のヨシコをおぶりながらおにぎりを食べていると母が「ヨシコにも食べさせよう」と言ってくれたおにぎりを少しつまみ、ヨシコの口に運びました。でも口が開きません。「この子はもう息を引き取っているよ」と母は言いました。いつの間にかヨシコは亡くなっていました。おにぎりを食べていた時、若い米兵に写真を撮られました。その時の写真が何十年も前の琉球新報に掲載されましたが、母は「悪いことを思い出さずから」とすぐに捨ててしまいました。でも私はどうしても捨てきれなくて、捨てられた新聞紙を捨てて今も大切にしています。



1984年6月7日付琉球新報夕刊「沖縄戦記録フィルム」から 戦 戦禍の日々に掲載された野原清子さん

●写真提供：沖縄県立図書館、平和祈念資料館

沖縄戦と戦後のあゆみ

- 1931年 満州事変
- 1939年 第2次世界大戦始まる
- 1941年 日本軍がハワイ真珠湾とマレー半島を攻撃。アジア・太平洋戦争始まる
- 1944年 南西諸島に第32軍を創設。司令部は首里
- 7月7日 南西諸島の老幼婦女子、学童の集団疎開が決まる。サイパンの戦いの終結、多くの軍人が死んだ
- 8月22日 疎開学童らを乗せた「対馬丸」が米潜水艦により撃沈
- 10月10日 米軍が南西諸島を空襲。那覇市はほとんど壊滅状態に
- 1945年 3月23日 米艦載機による空襲、翌日から艦砲射撃
- 3月26日 米軍が慶良間諸島に上陸
- 4月1日 米軍が本島に上陸
- 5月12日 シュガーローフの攻防激化(～18日)
- 5月22日 第32軍司令部、首里から摩文仁への撤退を決定
- 6月23日 牛島満司令官、長男参謀長が摩文仁で自決。日本軍の組織的抵抗が終わる
- 8月6日 広島に原子爆弾投下
- 8月9日 長崎に原子爆弾投下
- 8月15日 天皇がラジオ放送で無条件降伏の受諾を公表
- 9月2日 白米、降伏文書に調印
- 9月7日 第32軍が降伏文書に調印。沖縄戦が公式に終わる
- 1949年 米国の沖縄支配の方針固まる
- 1950年 朝鮮戦争
- 1952年 琉球政府創設
- 4月1日 サンフランシスコ講和条約発効で、沖縄諸島、奄美諸島、小笠原諸島の施政権が日本から分離され米国の下に置かれる
- 1953年 薩美諸島が日本に返還される。米軍が土地収用令を出し、土地を強制的に奪う
- 1956年 島ぐるみの土地闘争始まる
- 1959年 宮森バジェット機墜落事故
- 1960年 アイゼンハワー大統領来沖。ベトナム戦争始まる
- 1968年 小笠原諸島が日本に返還される。初の首相公選で屋良朝苗氏が当選
- 1972年 沖縄が日本に復帰
- 1995年 米兵による少女乱暴事件
- 1996年 日本が米軍普天間飛行場の全面返還で合意。沖縄特別行動委員会(SACO)最終報告で名護市への移設案、北部訓練場にヘリコプター着陸帯移設案が明記。米軍基地の整理縮小と日米地位協定見直しを求める県民投票実施、過半数が賛成
- 1997年 名護市民投票で海上基地反対が過半数
- 1999年 県と名護市が案件付きで普天間飛行場の移設受け入れを表明
- 2004年 米軍ヘリが沖縄国際大学に墜落
- 2007年 沖縄戦の「集団自決」(強制集団死)について、教科書検定意見で日本軍の強制を教科書から削除
- 2010年 名護市長選で「辺野古移設反対」を掲げた福嶋進氏が当選(14年に再選)
- 2012年 普天間飛行場にオスプレイ配備
- 2013年 岸井真弘前知事が辺野古沖埋め立てを承認
- 2014年 普天間飛行場の県内移設に反対する翁長雄志氏が知事に初当選
- 2015年 北部訓練場に2カ所のヘリコプター着陸帯を建設
- 2016年 北部訓練場で建設工事再開
- 2017年 辺野古で護岸工事始まる